

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.10.4-10

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

2:1 ある日のこと、神の子らが主の前に来て立ったとき、サタンもいっしょに来て、主の前に立った。

2:2 主はサタンに仰せられた。「おまえはどこから来たのか。」サタンは主に答えて言った。「地を歩き巡り、そこを歩き回って来ました。」

2:3 主はサタンに仰せられた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいない。彼はなお、自分の誠実を堅く保っている。おまえは、わたしをそのかして、何の理由もないのに彼を滅ぼそうとしたが。」

2:4 サタンは主に答えて言った。「皮の代わりに皮をもってします。人は自分のいのちの代わりに、すべての持ち物を与えるものです。」

2:5 しかし、今あなたの手を伸べ、彼の骨と肉とを打ってください。彼はきっと、あなたをのろくに違いありません。」

2:6 主はサタンに仰せられた。「では、彼をおまえの手に任せる。ただ彼のいのちには触れるな。」

2:7 サタンは主の前から出て行き、ヨブの足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で彼を打った。

2:8 ヨブは土器のかけらを取って自分の身をかき、また灰の中にすわった。

2:9 すると彼の妻が彼に言った。「それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。」

2:10 しかし、彼は彼女に言った。「あなた

は愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けなければならないではないか。」ヨブはこのようになって、罪を犯すようなことを口にしなかった。

2:11 そのうちに、ヨブの三人の友は、ヨブに降りかかったこのすべてのわざわいのことを聞き、それぞれ自分の所からたずねて来た。すなわち、テマン人エリファズ、シュアハ人ビルダデ、ナアマ人ツォファルである。彼らはヨブに悔やみを言って慰めようと互いに打ち合わせて来た。

2:12 彼らは遠くから目を上げて彼を見たが、それがヨブであることが見分けられないほどだった。彼らは声をあげて泣き、おのおの、自分の上着を引き裂き、ちりを天に向かって投げ、自分の頭の上にまき散らした。

2:13 こうして、彼らは彼とともに七日七夜、地にすわっていたが、だれも一言も彼に話しかけなかった。彼の痛みがあまりにもひどいのを見たからである。

サタンには愛という価値観がありません。ヨブが子どもたちを失って悲しんでいても、自分自身ではないから我慢できるのだと主張します。その結果の病は、体の中も外も、そして心までもむしばむものでした。

ヨブの妻は耐え切れずに、神をのろいたくなり、それ夫にさせようとしします。また友人たちは泣き、なすすべもありませんでした。それでも友人たちが来たことは、結果的にヨブの信仰と人生の回復につながったのです。

今は理解できないような苦しい状況でも、共同体であることをやめないで、主のみわざと一緒に見ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 火曜

ヨブ



- 3:1 その後、ヨブは口を開いて自分の生まれた日をのろった。
- 3:2 ヨブは声を出して言った。
- 3:3 私の生まれた日は滅びうせよ。「男の子が胎に宿った。」と言ったその夜も。
- 3:4 その日はやみになれ。神もその日を顧みるな。光もその上を照らすな。
- 3:5 やみと暗黒がこれを取り戻し、雲がこの上にとどまれ。昼を暗くするものもそれをおびやかせ。
- 3:6 その夜は、暗やみがこれを奪い取るように。これを年の日のうちで喜ばせるな。月の数のうちにも入れるな。
- 3:7 ああ、その夜は、はらむことのないように。その夜には喜びの声も起こらないように。
- 3:8 日をのろう者、レビヤタンを呼び起こせる者がこれをのろうように。
- 3:9 その夜明けの星は暗くなれ。光を待ち望んでも、それはなく、暁のまぶたのあくのを見ることがないように。
- 3:10 それは、私の母の胎の戸が閉じられず、私の目から苦しみが隠されなかったからだ。

に忍耐できなくなり、その心が折れてしまいました。

ヨブほどの人でも、耐えられないことがあるのです。私たちが自分のがんばりで信仰を保とうと思ってもできないときが必ずあります。

それでもヨブは「胎が閉じられず…」とあるように、神の主権を認めていました。

苦しみのときには主に叫びましょう。主権がある方だからこそ、この方に訴えるのです。「訴えることによってしか、その主権にひれ伏すことができない」というときもあるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

自分の生まれたことさえのろい、生まれなかった方がよかったというのは、人生を根底から否定することです。信仰のことばを発していたヨブも、次第



➤ 6日 水曜

ヨブ



- 3:11 なぜ、私は、胎から出たとき、
死ななかったのか。
なぜ、私は、生まれ出たとき、
息絶えなかったのか。
- 3:12 なぜ、ひざが私を受けたのか。
なぜ、私の吸う乳房があったのか。
- 3:13 今ごろ、私は安らかに横になり、
眠って休み、
- 3:14 自分たちのためにあの廃墟を築いた
この世の王たち、また議官たち、
- 3:15 あるいは黄金を持ち、
自分の家を銀で満たした首長たちと
いっしょにいたことであろうに。
- 3:16 それとも、私は、
ひそかにおろされた流産の子のよう、
光を見なかった
嬰兒のようでなかったのか。
- 3:17 かしこでは、悪者どもは
いきりたつのをやめ、
かしこでは、力のなえた者はいこい、
- 3:18 捕われ人も共に休み、
追い使う者の声も聞かない。
- 3:19 かしこでは、下の者も上の者も同じで、
奴隷も主人から解き放たれる。
- 3:20 なぜ、苦しむ者に光が与えられ、
心の痛んだ者に
いのちが与えられるのだろうか。
- 3:21 死を待ち望んでも、死は来ない。
それを掘り求めても、
隠された宝を掘り求めるのに
すぎないとは。
- 3:22 彼らは墓を見つけると、
なぜ、歓声をあげて喜び、

- 楽しむのだろうか。
- 3:23 神が困いに閉じ込めて、
自分の道が隠されている人に、
なぜ、光が与えられるのだろうか。
- 3:24 実に、
私には食物の代わりに嘆きが来て、
私のうめき声は水のようにあふれ出る。
- 3:25 私の最も恐れたものが、私を襲い、
私のおびえたものが、
私の身にふりかかったからだ。
- 3:26 私には安らぎもなく、
休みもなく、いこいもなく、
心はかき乱されている。

ヨブが自分自身と人生をのろっている間も、主は共にいてくださいます。そして彼の嘆きのことを聞いておられるのです。それは解決があるからです。私たちは嘆いている間はわからないのですが、私たちにとってはイエス様が解決となってくださいます。

私たちの生まれることと祝福は世の基が定まる前から決まっていたことであり、罪ある者がその祝福を受けるために、イエス様は十字架で死んでくださったからです。

苦しい嘆きとうめきの中にもイエス様ご自身がおられることに気づかせてきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 木曜

ヨブ



- 4:1 すると、teman人エリファズが話しかけて言った。
- 4:2 もし、だれかがあなたにあえて語りかけたら、あなたはそれに耐えられようか。しかし、だれが黙っておられよう。
- 4:3 見よ。あなたは多くの人を訓戒し、弱った手を力づけた。
- 4:4 あなたのことははずかしく者を起こし、くずおれるひざをしっかりと立たせた。
- 4:5 だが、今これがあなたにふりかかると、あなたは、これに耐えられない。これがあなたを打つと、あなたはおびえている。
- 4:6 あなたが神を恐れていることはあなたの確信ではないか。あなたの望みはあなたの潔白な行ないではないか。
- 4:7 さあ思い出せ。だれか罪がないのに滅びた者があるか。どこに正しい人で絶たれた者があるか。
- 4:8 私の見るところでは、不幸を耕し、害毒を蒔く者が、それを刈り取るのだ。
- 4:9 彼らは神のいぶきによって滅び、その怒りの息によって消えうせる。
- 4:10 獅子のほえる声、たける獅子の声は共にやみ、若い獅子のきばも砕かれる。
- 4:11 雄獅子は獲物がなくて滅び、雌獅子の仔らは散らされる。

エリファズはヨブに配慮しながら、またその功績をほめながら話します。ヨブの潔白を認めそれゆえに気づかせようとしています。

すなわち、苦難があるのはその人に罪があるからだという「因果応報」の世界観です。害毒を蒔く者は獅子のように強くても滅びるということです。彼は自分の考えが正しいという絶対的な確信があったので、神さえも正しいというヨブを、罪人という先入観で見えてしまいます。

因果応報は「報い」を与え、それは死ですが、神は「賜物」をくださいます。それはいのちです。人間的な先入観に囚われることなく、神の賜物と恵みに生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 8日 金曜

ヨブ



- 4:12 一つのことばが私に忍び寄り、
そのささやきが私の耳を捕えた。
- 4:13 夜の幻で思い乱れ、
深い眠りが人々を襲うとき、
- 4:14 恐れとおののきが私にふりかかり、
私の骨々は、わなないた。
- 4:15 そのとき、一つの霊が
私の顔の上を通り過ぎ、
私の身の毛がよだった。
- 4:16 それは立ち止まったが、
私はその顔だちを
見分けることができなかった。
しかし、その姿は、私の目の前にあった。
静寂…、そして私は一つの声を聞いた。
- 4:17 人は神の前に正しくありえようか。
人はその造り主の前に
きよくありえようか。
- 4:18 見よ。神はご自分のしもべさえ
信頼せず、
その御使いたちにさえ誤りを認められる。
- 4:19 まして、ちりの中に土台を据える
泥の家に住む者はなおさらのことである。
彼らはしみのように
たやすく押しつぶされ、
- 4:20 彼らは朝から夕方までに打ち碎かれ、
永遠に滅ぼされて、だれも顧みない。
- 4:21 彼らの幕屋の綱も彼らのうちから
取り去られないであろうか。
彼らは知恵がないために死ぬ。

エリファズは持論を主張するために、個人的な幻の経験を展開します。「因果応報」という間違った信仰によるものですから、作り話ではないとも言われています。

また「罪があるから苦難がある」との考えは、「正しくなければ神に愛されない」という神観に通じるものです。ですからエリファズには、人間は「永遠に滅ぼされて、だれも顧みない」ほど無価値であるように見えるのです。
人は神が顧みてくださいます。罪ある者も愛されています。また正しい者にも訓練があり、愛の中で支えられているのです。主が子として扱ってくださることに信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 土曜

ヨブ



- 5:1 さあ、呼んでみよ。
だれかあなたに答える者があるか。
聖者のうちのだれに
あなたは向かって行こうとするのか。
- 5:2 憤りは愚か者を殺し、
ねたみはあさはかな者を死なせる。
- 5:3 私は愚か者が根を張るのを見た。
しかし、その住みかは、たちまち腐った。
- 5:4 その子たちは危険にさらされ、
門で押しつぶされても、
彼らを救い出す者もない。
- 5:5 彼の刈り入れる物は飢えた人が食べ、
いばらの中からさえこれを奪う。
渴いた者が彼らの富をあえぎ求める。
- 5:6 なぜなら、不幸はちりから出て来ず、
苦しみは土から芽を出さないからだ。
- 5:7 人は生まれると苦しみに会う。
火花が上に飛ぶように。
- 5:8 私なら、神に尋ね、
私のことを神に訴えよう。
- 5:9 神は大いなる事をなして測り知れず、
その奇しみわざは教えきれない。
- 5:10 神は地の上に雨を降らし、
野の面に水を送る。
- 5:11 神は低い者を高く上げ、
悲しむ者を引き上げて救う。
- 5:12 神は悪賢い者のたくらみを打ちこわす。
それで彼らの手は、
何の効果ももたらさない。
- 5:13 神は知恵のある者を
彼ら自身の悪知恵を使って捕える。
彼らのずるいはかりごと
はくつがえされる。

- 5:14 彼らは昼間にやみに会い、
真昼に、夜のように手さぐりする。
- 5:15 神は貧しい者を剣から、
彼らの口から、
強い者の手から救われる。
- 5:16 こうして寄るべのない者は
望みを持ち、不正はその口をつぐむ。

エリファズが語ったヨブへの忠告です。神は正しい方なので、理由なくして苦難を与えないと言
い、火という原因があるから火花が飛ぶように、
ヨブに原因があるから火花のように病があるのだ
と主張します。これは聞くに値する内容ではあり
す。

またエリファズは「私なら」正しいことをする
という主旨の発言をします。以上は間違っ
てはいません。しかし、主は42章では彼に対して「真
実を語らず」と言われます。ただ一面的な正しい
ことを主張したり、また上から決め付けるよう
にして相手に語ることは、主の目には真実な姿で
はないのです。ましてや神様の愛の摂理は、私たち
の正しさのゆえではなく、ただただ恵みです。

自分が主張する「正しさ」によって、主の御心
から離れてしまうことのないように気をつけま
しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



- 5:17 ああ、幸いなことよ。
神に責められるその人は。
だから全能者の懲らしめを
ないがしろにしてはならない。
- 5:18 神は傷つけるが、それを包み、
打ち砕くが、その手で
いやしてくださるからだ。
- 5:19 神は六つの苦しみから、
あなたを救い出し、
七つ目のわざわいはあなたに触れない。
- 5:20 ききんのときには死からあなたを救い、
戦いするときにも剣の力からあなたを救う。
- 5:21 舌でむち打たれるときも、
あなたは隠され、
破壊の来るときにも、
あなたはそれを恐れない。
- 5:22 あなたは破壊とききんとをあざ笑い、
地の獣をも恐れない。
- 5:23 野の石とあなたは契りを結び、
野の獣はあなたと和らぐからだ。
- 5:24 あなたは自分の天幕が
安全であることを知り、
あなたの牧場を見回っても
何も失っていない。
- 5:25 あなたは自分の子孫が多くなり、
あなたのすえが地の草のようになるのを
知ろう。
- 5:26 あなたは長寿を全うして墓にはいろう。
あたかも麦束が
その時期に収められるように。
- 5:27 さあ、私たちが調べ上げたことは
このとおりだ。
これを聞き、あなた自身でこれを知れ。

神は正しく報いるお方です。また素晴らしいご計画を持っておられる方であって、たとえ神に責められるようなことがあっても、神はそれを幸いに変わてくださる恵深い方です。

ですからここに書かれているエリファズの主張は正しいのです。しかし、そのような正しさにも落とし穴があります。つまり、神ご自身がそのような”正しさ”に”従わなければならないのだ”という考え方です。人間が理解している、その正しさの方が、神よりも上になってしまうという考えです。（このヨブ記ではそのことがテーマです）

私たちはまず第一に、神が求める正しさを持ちましょう。そして神への信頼を持ちましょう。主は義と愛のお方だからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

